令和４年度　第３回　学校運営協議会

日時：令和５年２月２２日（水）　１５：００～１７：００
場所：大阪府立中央聴覚支援学校　高等部会議室
出席者：学校運営協議会委員（敬称略）
　井坂　行男（大阪教育大学教育学部　総合教育系特別支援教育部門　教授）
　前田　浩　（大阪ろう難聴就労支援センター　理事長）書面参加
　良原　惠子（大阪府立校スクールカウンセラー　スーパーバイザー）書面参加
　尾中　友哉（NPO 法人 SilentVoice 代表）
　佐藤　てるみ（本校 PTA 会長）

１．開会
２．学校長挨拶
３．学校の様子について
　　キャリア教育一覧表に基づき、幼小中高各部及び寄宿舎より報告
４．議事
（１）令和４年度学校教育自己診断について学校長より説明
＜委員からの主な意見・質問及び回答＞
①全体をとおして
・ほとんどの項目で前年度よりも肯定的評価の割合が上昇している。授業や子どもたちへの関わりにおいて積み重ねができてきたと捉えられる。
②教職員アンケートに関して
・将来、多くの仕事が AI やロボットに取って代わられることが予想され、ICT 活用力のある人材が求められる。音声認識等のツールが広がっていく中で、読み書きの力はより必要となる。社会参加・自立のためにも学校生活全体がキャリア教育であると捉えて進めてほしい。
③保護者アンケートに関して
・キャリア教育の取り組みはどのように家庭と連携しているのか。
→幼稚部では、毎日の送迎時に保護者に子どもの様子を伝えることができる。学校でがんばったことを伝え、家庭でも役割をもたせてもらうように促している。高等部では懇談会などで、近い将来一人暮らしになることもあるので、生活に関しても自立を促すよう伝えている。
④児童生徒アンケートに関して
・ろう学校は安心してコミュニケーションできる場である。「先生の話はわかりやすい」という項目が９１％と高い肯定的評価であるが、どのような取り組みをしているか。
→同僚のサポート、校内新転任研修会、手話サロン、課業中の手話研修、大阪府の手話講習会など。
⑤教職員保護者比較に関して
・人権尊重について肯定的評価が高くなった。どのような変化があったか。
→教員が子どもに寄り添うスタンスになったこと。指導するのは学習面。生活面は人として一緒に考えサポートする。
・きこえない人はきこえる人に「助けてもらう」という上下関係ができてしまうことがある。そうではなく、人として対等な関係をつくれるようになってほしい。

（２）令和４年度学校経営計画及び学校評価（最終報告）について学校長より説明
＜委員からの主な意見・質問及び回答＞

・中高生だけでなく小学生も奈良ろう学校と交流ができたとのこと。仲間づくりが広がると良い。
・ギガスクール構想に関して、ハード・ソフト・指導体制の３つを生かすためには、わかる授業ができるスキルが必要。わかる説明・視覚的支援・書記日本語によるおさえについての研修も ICT 研修と共に必要。
・学校は「授業」が大きな柱なので、研究授業や相互見学などの研修を意識して続けてほしい。
・南大江地区防災訓練に PTA と学校が協力して参加し、防災意識を高めて活動することができた。

（３）令和５年度学校経営計画及び学校評価について学校長より説明
＜委員からの主な意見・質問及び回答＞
・クラウドサービスとはどのようなものか。
→メクビットを検討中。一人一台タブレットを家庭学習にも有効活用したい。
・自立活動プログラムの方向性はどのように考えているか。
→学習指導要領と関連づけた４つの柱だけでなく、重複児童生徒の学習内容も含めた見直しをする。

５．事務局より連絡
６．閉会